

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600100		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム めくもりの家 藤橋		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町西横山橋場南436-2		
自己評価作成日	平成29年1月5日	評価結果市町村受理日	平成29年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2192600100-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ゑふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

美しい自然に囲まれた場所で地域の特色を活かし、顔なじみの人々との暮らしができるだけ継続できるように、地元の方との交流に努めており気軽に話しかけていただく関係を築いている。また、9名の利用者様がそれぞれの個性や習慣を大切にさせていただき笑顔ある生活を送ることができるように、個別の支援に力を入れている。日常の健康管理は看護師と協同で行い、地元の診療所を協力医とさせてもらうことで利用者様の安心感に繋がっている。看取りを希望される方も増え、入居から最期の時までその方らしい生き方を考え、職員全員で支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は揖斐川渓谷に位置し、四季折々の景色を楽しめる、自然豊かな環境にある。開設の際は、地元住民の期待も大きく、4年が経過した現在、事業所は地域の一員として溶け込んでいる。利用者は、地元の人が多く、馴染みの環境の中で心穏やかな生活を送っている。管理者、職員は、常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、最後までその人らしい人生が送れるように、医療・看護・介護の連携を図り、常に温かくめくもりのある支援に努め、実践している。また、職員のスキルアップを目指し、法人の4事業所合同で年間研修計画をたて、より良い利用者サービスに繋がられるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議や研修で確認したり、日々の支援の中で話をして職員の意識が高まるように取り組んでいる。また、外部の方にもわかりやすいように掲示して理念の共有ができるようにしている。	理念は玄関に掲げ、名札の裏にも明記し、その意義を職員間で日々共有している。職員は、利用者が地域の中で、馴染みの環境に癒されながら、心穏やかな生活が送れるよう実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の利用者様も多く地域の行事表をもらい積極的に参加している。畑や花壇の作業中、散歩や道の駅等へ行った時などでなじみの方と話す機会も多く、日常的な交流に努めている。	自治会の一員として、夏祭りや秋祭り、文化祭、寺の報恩講など、地域の行事へ積極的に参加している。地元の農協や道の駅での買い物、除雪では近所の人に応援に来るなど、親しい付き合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃活動に利用者様と一緒に参加している。また、地域ケア会議にも参加し、介護相談をいつでも受付けていることを区長や民生委員の方にお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢福祉課職員・区長・民生委員などに参加いただき、現状報告や取り組み等をお伝えしている。利用者様が行事に参加することで関わりがあるため、率直な意見交換ができています。	会議は隔月に開催している。利用者の現状と行事や活動を報告して意見交換を行い、運営に反映させている。出席者から、地元高齢者の現状と課題提起があり、行政担当者からは、防災対策やハザードマップ情報を得ている。	運営推進会議には、家族が出席できるように、日程の工夫をされることが望ましい。家族の参加を得て、利用者の現状や認知症の理解がより得られるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者と気軽に相談にのってもらえる関係作りに努め、高齢福祉課の会議や研修会に積極的に参加して連携を取っている。また、向かいに振興事務所があるため、相談や報告等積極的に伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	町主催の施設職員連絡会議や研修会に参加している。また、事故報告と運営上の課題などを相談し、助言を得ている。地域の独居世帯の現状について、情報を交換したり、隔月で、介護相談員の訪問を受けるなど、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修や、外部の研修を定期的に行い理解を深めている。介護方法を皆で検討することにより、拘束を行わないよう努めている。また、心理的拘束はいつでも起こりうると認識して職員がお互いに気をつけている。	身体拘束については、職員の介護力で補い、拘束ゼロを実践している。また、言葉による拘束についても、正しく学び、利用者が、心理的に抑圧感を感じることをしないよう努めている。利用者が安心できる生活環境を整え、帰宅願望のある利用者には、行動を見守りながら、寄り添うケアで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や職員研修で行い理解を深めている。日々の支援の中、見過ごされることがないように、お互いが注意できるよう意識している。また、職員の気持ちを大切に、相談しやすい雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される方も増えてきており、必要性があればご家族に活用できるよう支援をしている。権利擁護に関する勉強会に参加して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はゆとりある時間を設け、文章の読み合わせを行いながら質問に答えている。詳しい事項を伝え、理解・納得されているか確認をし、同意していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様は日常の生活から要望があればその都度対応している。ご家族は面会や担当者会議時に意見や要望を伺い、支援や運営に反映させている。	利用者の要望には細かい配慮で応じ、家族の意向は担当者会議や交流会、面会時に聞いている。家族からは、職員の労務負担を心配する声と、感謝の気持ちが伝えられている。利用者の様子は常に報告し、家族と意思の疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の時に、意見書を用い皆の意見や提案、相談を聞く機会をつくっている。また、4事業所の管理者が集まり意見交換する会をつくり、積極的に職員の意見を聞き、運営に活かしている。	職員からの意見や提案を話し合う全体会議を設けている。また、個人面談の場もある。管理者は、職員からのケア方法についての提案や勤務体制の希望を聴き、運営に活かしている。また、法人合同の研修会や学習会への参加を支援し、職員の働く意欲の向上に繋がるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りを考え、労働時間の配慮、昇給、個々の得意なことによる役割などを決め、向上心をもって楽しく働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修として年間15研修を計画実施しており、段階を経た研修やその時々現状を踏まえた勉強会を行っている。また、法人外の研修にも積極的に参加したり、毎日の仕事の中で管理者が指導、教育する取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は職員が町の施設職員連絡会の会長になっており、他の施設の職員と関わる機会を多く持っている。町の勉強会を開催して職員同士も交流を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、現在の心身状態など事前に把握し、ご本人が安心できる生活が始められるよう努めている。また、他のサービス事業所からも情報提供して頂き、スムーズに支援が始められるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に面談し、ご家族の不安や悩み、疑問、要望を伺い、関係作りに努めている。また、ご本人、ご家族の要望を暫定プランに記載して、職員が思いを把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の生活の心配事や不安、今後どのような生活を送りたいのか等を、ご本人、ご家族と話し合い、必要な支援を確認している。また、他のサービスが必要な時は、事業所の紹介やサービスの内容を説明し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの生活習慣を職員も習い、一緒に行っている。野菜作り、野菜の収穫、掃除等暮らしを共にする認識を持って支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず担当職員がお話を伺い、相談しながら支援するように努めている。また、近況報告を郵送し、施設での様子や行事等お知らせしている。ご家族の目線で気持ちを伺い、より良い関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った場所で入居前と変わらぬように地域の行事に参加したり、ご友人、近所の方にも気軽に立ち寄って頂き、お茶を楽しんで頂いている。また、入居者同士幼馴染や近所の方といった繋がりががあるため、交流も盛んである。	家族や親戚、近所の方が面会に訪れている。農協の売店や道の駅に出かけたり、敬老会に参加して、知人・友人に出会っている。また、地元の神社参拝や寺の報恩講への参列なども行っている。定期訪問の美容師や往診医とも馴染みの関係になってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士馴染みの関係が多いので、一日のうちに自由に交流している。また、楽しく過ごして頂けるように、部屋の家具や雰囲気作りにも力をいれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も事業所、ケアマネと情報交換している。また、いつでも相談にのれるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の要望(事前に意向書を記入していた)を担当者会議で伺い作成している。また、認知症状で意向が把握できない利用者様の場合もあるため、職員が代弁したり皆で検討している。	日常の場面で、本人の表情や言動から、思いや意向を把握している。利用者の中には、偏食がある人、自宅や畑が気になる人、排泄時間を守りたい人など様々である。本人のこだわりを受け止め、持てる力を継続できるよう支援し、利用者一人ひとりの思いに寄り添いながら、希望の暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活や暮らし方を伺い、習慣や性格を早く把握できるように努めている。また、関係者(主治医・他事業所・ご家族・近所の方)からも情報提供をしていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを定期的に見直して現状の把握に努めている。とくに健康状態・食事・睡眠等は介護記録簿とは別に一覧表にして毎日記録し、職員が把握しやすいように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を常に意識できるように介護記録簿に記載し、モニタリングも兼ねることができるよう工夫をしている。担当者会議でご本人、ご家族、管理者などを交えて話し合い、現状のニーズに沿った計画書作成に努めている。	サービス担当者会議には、家族も参加している。職員や関係者の意見や気づきを踏まえ、家族の意向を反映した介護計画を作成している。計画が明記された介護記録簿は、利用者の状態変化時には、モニタリングを重ね、計画と連動させながら、柔軟な見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や心身状態は、介護日誌・体調管理表に記録し、情報を共有している。また、毎日ケアプランの目標がなされているか確認している。特記事項は共通の連絡表に記入して迅速な情報把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地元の人の利用が多いため、近所にある自宅や畑を見に行ったり、行事の参加ができるよう支援したりしてその時のニーズに合わせてできるだけ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や喫茶店など、普段の暮らしの中で利用者様と利用している。また、地元で行われる行事(夏祭り・秋祭り・いびがわマラソンの応援)に参加して頂くことで喜びを感じている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医は自由に選択していただいている。当施設の協力医は月に2回の往診があり継続して医療を受けられるようにしている。24時間連携をしており、常に診療所と連携がとれている。	かかりつけ医は、全員が協力医を選択し、定期的な往診と訪問看護の体制がある。歯科医と歯科衛生士、整体師等は、利用者の状態や希望に応じて訪問を受けている。急変時は、速やかに医師につなげ、適切な判断と助言を得て対応を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回看護の訪問を受けている。体調変化があったり心配なことがあると、看護師に相談して施設の看護師に伝え、介護職員と情報を共有して日々の健康管理に役立てている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員が付き添い、すぐに情報提供書を提供して、安心して治療ができるよう努めている。日頃よりかかりつけの医師とコミュニケーションを密にし、早期発見に努め、緊急時に迅速に対応できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をぬくもりの家で過ごしたいと希望する方が増え、ニーズが高まる中職員研修に力を入れている。特に今回の研修会では終末期ケアを経験した感想や改善点などアンケートをとり事例検討会をし、職員の意識や技術が高まるように計画している。	重度化・終末期の指針を定め、家族に説明し同意を得ている。段階に応じて関係者で話し合い、方針を共有している。また、職員は、同法人の終末期ケアについて、研修を重ねながら、尊厳ある看取り介護ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の研修を定期的に行い勉強している。ヒヤリハットの報告を行い、事故を未然に防ぐことができるよう努めている。緊急時の連絡体制も確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(日中想定1回・夜間想定1回)消防訓練を行い、職員全員が参加をしている。また、近隣にある振興事務所や区長にも応援協力の依頼をし、訓練にも協力、参加を頂いている。	災害訓練には消防署が立ち会っている。失火元を特定した消火訓練や、夜間や地震、土砂災害も想定した通報、避難等の訓練を行なっている。地域の役職者を連絡網に連ね、近隣との協力関係を築いている。災害用の食料や必需品を備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自室は自宅と同じように徹底してプライバシーの確保に努めている。研修にも参加し、接遇研修に参加することによって声かけにも十分気をつけている。	利用者の誇りや尊厳を損ねないように、穏やかな言葉かけに努めている。居室の小窓は、安全確認用として本人の理解と同意を得ている。プライバシー確保に向けては、全職員に、法令順守と接遇の原則を周知徹底させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定をしていただくようにしている。外出の希望など皆で相談し、ご本人の希望に添えるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活に合わせた過ごし方を支援している。一日の過ごし方を決め、皆さんとのコミュニケーションを持てるよう声かけをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の衣類を大切にされる方が多く、洗濯時にも長く着られるように気をつけている。季節に合わせて本人に合った衣類を決めて頂き、その人らしいおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を畑から収穫したものを料理をし、食べる楽しみをつくっている。また、時には一緒にテーブルで調理して見て、作って、味わうことを企画して好評を得ている。嚥下状態に応じて形態を変えて、同じ物が食べられるように対応している。	献立には、庭の畑で収穫した野菜を利用したり、利用者が、食事の準備や片付けなど、できることに進んで関わっている。検食の職員と一緒に食し、他の職員は、食事介助を要する利用者の対応を行なっている。音楽が流れる中、利用者同士の明るい会話が飛び交う楽しい食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を作り、食べる量に合わせて盛り付けしている。夏場は水分量が分かるようペットボトルを置いたり、時間を決めて水分をしっかりとれるようにしている。習慣に合わせて魔法瓶でお茶を入れる方もみえる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後一人ひとり口腔ケアを行っている。義歯の手入れを忘れないよう声かけをしたり自分のできる方にはできるだけセルフケアを促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居前と同じように排泄の自立が保てるよう定期的に誘導し、声かけをしている。失敗されても気にされないようにさりげなく処理をし、声かけを支援している。	排泄については、早めの声かけと誘導に努め、出来るだけ失敗を少なくし、支援に努めている。5部屋はトイレ付き居室であり、利用者に合わせて、自立の維持、トイレでの排泄を習慣化できるよう支援している。オムツ用品は状態に応じたものを選択し、夜間も適時な声かけで自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便トラブルになりやすくなるので、食事量水分量をチェックし、運動不足にもならないよう行っている。排便チェックを行い、薬の使用は医師と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回の入浴を決め、お1人ずつゆっくり入浴して頂いている。夏場にはシャワー浴を増やすなどして気候や希望に合わせた対応をしている。入浴中の会話も楽しみの一つになっている。	職員は、利用者が入浴を楽しめるよう、雰囲気作りに努めている。気のすすまない時や体調によっては、シャワー浴や足浴に変えている。男性職員が介助にあたる時には、利用者の意向を確認し、ゆったりと安心・安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に、一人で静かに過ごして頂く時はコミュニケーションをとりながら話しをしている。寝具の確認や夜勤者のあいさつも一人ひとり行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や用法用量について理解し、支援を行っている。症状の変化にも努めている。往診時には症状の変化など主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生きがいや役割のある生活を送って頂くように園庭の草取りや歌など楽しんで頂いている。気分転換にデッキでお茶をしたりランチをするなど喜びのある時間が作れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は生活の一部ととらえ、希望を取り入れ楽しんで頂いている。買い物や散歩なども時々楽しみ、気分転換して頂いている。地域の行事にも参加している。	日頃は戸外に出て、地域住民や自然と触れ合っている。地元の行事や祭りに出かけたり、バラ園や季節の花見、道の駅、神社仏閣などへはドライブを兼ねて外出している。また、家族の協力を得て、自宅や畑の様子を見に出かけている。	

グループホームぬくもりの家 藤橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は自己管理をいただいている。ほとんどの方は小口資金として預り、欲しい物等あった時に使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話や施設の電話を利用され、ご家族、ご友人等とやりとりできるように支援している。年賀状やお手紙を出したりと、定期的に連絡できるようにお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りや、温かみや美しい色合いの物を利用し、清潔で心地良い空間作りをしている。日光を取り入れるように窓の近くにテーブルを配置し、外の景色を楽しめるように努めている。	玄関や共用の場のいたるところに、鉢植えや生花等を飾っている。木のぬくもりを感じられる共用の間は、明るい陽が差し込み、清潔感がある。多目的室は、会議や家族の宿泊にも利用している。プロカメラマン撮影のモノクロ写真や、様々な絵画や小物を飾り、居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室から共有スペースが近くにあり、孤独を感じないようにしている。共有スペースにテーブルとソファを置いたり、ウッドデッキにテーブルセットを置いたりして、のびのびした空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や置物を持ってきて頂き、一緒に居室作りをしている。必要な物(ベッド・ダンス・テーブルセット・ソファ等)は施設で用意させて頂き、ご自由に使用して頂いている。	居室には備え付けのベッド、ソファ、ダンス、机が設置されている。二階の居室には、トイレと洗面台がついている。仏壇やテレビ、本棚などを自由に持ち込み、誕生日の色紙、カレンダー、家族の写真等を飾り、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになっており、トイレ、廊下、浴室等手すりが整備され、一人ひとり安全な生活が送れるようにしている。自室は移動が楽なように家具を安全な位置に置いて、自立が保てるように工夫している。		